

教科の重点スキルとスキル育成のためのテーマ【C1 創造力 D2 協働力】

〔共通事項〕を手がかりに言語活動を取り入れ、協力し創意工夫して表現する力を育む活動の充実

1 題材名 ようすを おもいうかべよう

2 題材の目標

- 楽曲の気分を感じて聴こうとしたり、思いをもって歌おうとしたりする。(音楽への関心・意欲・態度)
- 楽曲の気分を感じ取りながら、歌詞の表す情景や気持ちを想像して、声の出し方、速度や強弱を工夫し、どのように歌うかについて思いをもつ。(音楽表現の創意工夫)
- 歌詞の表す情景や気持ちを想像しながら、声の出し方に気をつけて、楽曲の気分合った表現で歌う。(音楽表現の技能)
- 速度や強弱などに気をつけて聴き、様子を思い浮かべたり楽曲の気分の変化を感じ取ったりしたことを言葉で表すなどして、楽曲全体にわたる気分を楽しんで聴く。(鑑賞の能力)

3 題材について

(1) 児童の実態

本学級は、明るく活発で歌うことが好きな児童が多い。また、毎年校内音楽祭を実施して、上級生の歌声や器楽演奏を聴いていることもあり、音楽鑑賞の意欲も高い。しかし、アンケート項目の3からも分かるように、曲想に関係なく、どのような曲でも大きな声で元気に歌ってしまったり、楽しく踊りながら聴いてしまったりしていることが多く、「楽曲の気分」を味わって聴いたり、曲想や歌詞の表す情景を想像しながら、思いをもって歌ったりすることが難しい実態があることがわかった。

(2) 次世代型AZUMAプランの重点スキル育成のための手立て

次世代型AZUMAプランにおける音楽科の重点スキル「D2 協働力」を育成するために、本時では、体を動かす活動を通して速度や強弱、リズムや拍の流れといった音楽を形づくっている要素を楽しく体感し、根拠をもって「楽曲の気分」を味わうことができるようにする。また、活動形態については、机のないフロア式をとることで、体を動かしやすい環境を整えたり、一人一人が感じたことを伝え合って学級全体で思いを共有しやすくしたりして、協働力を育成していきたい。

また、本題材の「楽曲の気分を感じ取って聴いたり、曲想に合うような歌い方を工夫したりする」という活動は、今後の歌唱における表現活動の基礎となるものであるため、写真や映像教材などのICTを活用して視覚的に曲想を感じ取りやすくしたり、歌詞を丁寧に音読して内容を理解する活動を取り入れたりすることにより、楽曲の気分合った表現の能力の確実な定着も図っていきたい。

4 指導と評価の計画

(1) 次世代型AZUMAプランと関連単元(D2 協働力)

前期 (1年~4年)	中期 (5年~7年)	後期 (8・9年)
自分の思いや願いを表現するとともに友達の思いや願いを知ること、自分の表現の幅を知ることができる。	グループで話し合うことで、曲に対する考えを深め、自分たちの思いや願いを込めた音楽を作ることができる。	合唱・合奏・重唱・重奏、(独唱、独奏)の様々な形態の中で互いの意見を交換し、協力して音楽を作り上げるとともに、技能・表現力を高めながら、協力し合って音楽を作り上げることができる。
1年 ようすを おもいうかべよう 3・4年 曲の気分を感じ取る	5・6年 曲想を味わおう 7年 歌詞の内容と旋律の特徴	8・9年 旋律のまとまりと表情

(2) 題材の指導計画(9時間扱い、本時は○)

次	時	学習活動	評価規準
1	②/2	・ 「人形のゆめと目ざめ」を旋律や速度に注目して鑑賞し、場面の変化に気付いたり、楽曲全体の気分の変化を味わう。	・ 速度や強弱、場面の変化などに気をつけ、楽曲全体にわたる気分を楽しんで聴いている。(鑑賞の能力)
2	②/2	・ 「夕やけこやけ」の歌詞の表す情景を思い浮かべて、声の出し方や発音の仕方を工夫して歌う。	・ 歌詞の表す情景や気持ちを想像して、声の出し方、速度や強弱を工夫して歌っている。(音楽表現の創意工夫)
3	2	・ 「海とおひさま」の拍の流れを感じ取り、歌詞の情景に合った歌い方を工夫する。	・ 拍の流れや歌詞の表す情景を想像し、どのように歌うかについて思いをもっている。(音楽表現の創意工夫)
4	3	・ 「小ぎつね」を楽曲の気分を感じ取り、工夫して歌ったり、鍵盤楽器で演奏したりする。	・ 楽曲の気分合った表現で歌ったり、演奏したりしている。(音楽表現の技能)

(3) 鑑賞活動における本時の指導計画(1次2時間目)

① 目標

曲想の変化を感じ取り、考えたことを伝え合い、楽曲全体の気分を楽しんで聴く。

② 展開

(◎評価、☆重点スキル育成のための手立て)

学習活動及び内容(学習形態)	指導上の留意点
1 本時の学習課題をつかむ。(一斉) 4つの場めんの人形のようにようすを思いうかべなが	・ 場面絵を見せて、楽曲が4つの場面に分かれていることを伝え、人形の様子に合わせて変化する曲想を感じ取れるように意識付ける。

ら音楽をきいて、曲の中のひみつを見つけよう。

2 「人形の夢と目ざめ」を聴いて、話し合う。

(1) 楽曲を通して聴く。(一斉)

曲想が変わったら挙手する。

(2) 人形の気持ちや様子を想像して、場面ごとにワークシートに書き、グループで伝え合う。(グループ)

(予想される児童の考え)

① 「子もりうた」

ゆっくり、音が小さい、3拍子の曲、優しい、ねむくなりそう

② 「人形のゆめ」

少し速くなった、音が少し大きくなった、楽しい、優しい

③ 「人形の目ざめ」

びっくりした、目がさめる音

④ 「人形のおどり」

テンポが速い、スキップしたい、音が大きくなったたり小さくなったりしている、ダンスの音楽

(3) 感じたことを発表し合い、考えを共有する。(一斉)

① 場面ごとに感じたことを発表し合う。

② 教師のピアノ伴奏に合わせて体を動かし、場面の变化を確認する。

3 楽曲の気分の変化を感じ取りながら、全体を味わって聴く。(一斉)

4 本時のまとめをする。(一斉)

ばめんごとに音楽が変わり、きよくの気分もかわる。

・ 速度や強弱、リズムや拍の流れといった音楽を形づくっている[共通事項]を「ひみつ」という言葉にして児童に伝え、楽しみながらそれぞれの場面の音楽の特徴を見つけて鑑賞できるようにする。

・ 曲想が変わったところで挙手することで、学級全体が変化に気付くことができるようにする。

・ 個人で感じたことをグループで話し合うことで、考えを共有して深めていくことができるようにする。
・ 速度や強弱、リズムや拍の流れといった[共通事項]を根拠にして、「楽曲の気分」の変化を感じ取ることができるように声をかける。

・ 「どうしてそう感じたの?」と問いかけ、[共通事項]と「楽曲の気分」を関連を意識できるようにする。

☆ 一人一人が想像したことを伝え合いながら、グループごとに思いを深めたり、学級全体で「楽曲の気分」を共有したりすることで、[共通事項]についての理解を深め、鑑賞の力を高め合うことができるようにする。(D2 協働力)

・ 児童の発表を場面ごとに掲示して、曲想の変化がわかりやすいようにする。

・ 速度や強弱、リズムや拍の流れといった[共通事項]に関わる言葉も併せて掲示し、「楽曲の気分」の変化を感じ取るための根拠を示していく。

・ 教師が場面ごとにピアノで演奏し、それに合わせて児童が体を動かすことで、曲想の変化を確認できるようにする。

☆ 教師のピアノに合わせて体を動かすことで、曲想にあった動き方を意識したり、友達の動きを参考にして自分の動き方をよりよいものに変えたりして、曲想の変化を感じ取る力を高め合うことができるようにする。(D2 協働力)

・ 自由に体を動かしながら鑑賞してもよいことにする。

◎ 曲想の変化を感じ取り、楽曲全体の気分を楽しんで聴くことができる。(活動観察、ワークシート)

・ 数名の児童に活動の感想を発表させる中で、音楽を形づくっている要素と楽曲の気分との関連を確認し、まとめとする。

(4) 歌唱活動における本時の指導(2次2時間目)

① 目標

歌詞の表す情景を想像して、強弱や速度などを工夫して歌う。

② 展開

(◎評価, ☆重点スキル育成のための手立て)

学習活動及び内容(学習形態)	指導上の留意点 ◎評価
<p>1 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>① 「夕やけこやけ」を歌詞唱する。(一斉)</p> <p>② 目を閉じてGTの模範演奏を聴いて情景を思い浮かべ、伝え合う。(グループ → 一斉) (予想される児童の考え)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 優しい歌声で、オレンジ色の夕やけの様子が浮かんできたよ。 ・ 最後はゆっくりしていたから、月や星が出ている夜になった感じがしたよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の活動による歌声の変容を意識させるため、活動前の歌声を録音しておく。 ・ 授業の導入に、前時の活動を思い出して、のびのびと歌う場をつくる。 ・ 音楽専科の教師をGTとして招き、模範演奏を鑑賞する。その際、間奏を入れたり、伴奏にも変化をつけたりして、児童に「すてきな夕やけこやけ」をイメージさせたい。 ・ 「目を閉じると、どんな夕やけこやけが見えてくるかな」と声をかけ、児童が情景をイメージしながら鑑賞できるようにする。

- ・私たちは元気に歌ったけれど、先生は言葉をはっきり心をこめて歌っていたからすてきなだね。

③ 本時の学習課題を確認する。

かしのようすを思いうかべて歌い、すてきな「夕やけこやけ」にへんしんさせよう。

2 歌詞から情景を想像し、楽曲の気分に合った表現で歌う。(一斉)

① 歌詞を音読し、情景を想像する。

(予想される児童の考え)

- ・だんだん夜になっていくから、夕やけの色が変わるね。
- ・月や星、ゆめなど、きれいな言葉が出てくるね。
- ・もっと遊びたいのに帰らなければいけないから、少しさみしいな。
- ・最後はみんなが眠ってしまうから静かな感じがするな。

② 楽曲の気分に合った表現で歌う。

- ・きれいな夕やけの曲だから、響きのある優しい声で歌おう。
- ・広い空の様子が伝わるように、なめらかに歌おう。
- ・だんだん夜になっていくから、最後は少しゆっくり歌おう。

3 全体を通して録音し、話し合う。(一斉)

① まとめの演奏を録音する。

② 活動前後の演奏を聴き比べ、気付いたことを話し合う。

4 本時のまとめをする。(一斉)

かしのようすを思いうかべて歌うと、「すてきな夕やけこやけ」になる。

- ☆ 思い浮かべた情景を伝え合うことで、互いのイメージを共有し、楽曲の気分をより深く感じ取れるようにする。(D2協働力)

- ・自分たちの元気な歌い方と違い、GTは声の出し方や発音の仕方に気をつけ、歌詞を大切に歌っていることに気付かせ、活動の見通しをもって本時の課題をとらえられるようにする。

- ・歌詞の内容に合った写真をスクリーンで映し、歌詞の情景を想像しやすくする。

- ・前時までに、個人で歌詞の内容から想像できることをワークシートに書いておく。本時では、学級で考えを伝え合いながら、楽曲の気分に合った表現で歌うための参考資料として活用する。

- ・「歌詞のどの言葉から、そう思ったの？」と問いかけ、情景を想像するためのキーワードを見つけていく。

- ・「楽曲の気分に合った表現で歌う→すてきな夕やけこやけにへんしんさせる」ことを伝え、楽しく活動できるようにする

- ・声の出し方や発音の仕方にも気をつけられるように助言する。

◎ 歌詞の表す情景を想像して、楽曲の気分に合った表現で歌うことができる。(観察・発表)

- ・間奏を入れたり、伴奏の音色を工夫したりして、児童が楽曲の気分に合った表現ができるようにする。
- ・自分たちの歌声が「すてきな夕やけこやけ」に変わったことに気付かせ、達成感を味わわせたい。

- ・数名の児童に感想を発表させる中で、歌詞の情景を思い浮かべて楽曲の気分に合った表現で歌うことの大切さを確認し、本時のまとめとする。